

これまで見てきたように、施設外就労での農作業の手伝いという形で、多くの農家・農業法人と障害福祉サービスマンが結び付きだしています。そしてそれを加速させているのが府県によるマッチング支援で、そこでJAが果たしている役割も決して小さくありません。実際に、香川県だけでなく、長野県によるマッチング支援では、同支援事業の実施事業者である長野県セルブセンター協議会と連携してマッチング支援を行っているJA松本ハイランドが重要な役割を果たしており、その功績を評価されてノウフクアワード2020で審査員特別賞を受賞しています。

千葉大学大学院園芸学研究院教授 吉田 行郷 氏

## 注目を集める取り組み

からの支援もあって増加しているだけでなく、農業に本格的に取り組み障害福祉サービスマン事業所や、障害者の雇用にも本格的に取り組む農家や農業法人も増えてきています。

### 特例子会社設置 自社農園で作業

こうした取り組みの中には、JAぎふが100%出資して設置された、特例子会社「株式会社はっぴいまるけ」も含まれます。

同社では、障害者19人がJA本店での事務作業、JA直売所のバックヤード作業、自社農園での農作業などに取り組んでいます。そのユニークな社会へ貢献度が高い取り組みが評価され、ノウフクアワード2021ではフレッシュユアを賞しています。

農業者の高齢化、雇用労働力の不足は進展する一方であり、マッチング支援を行う府県やJAも拡大していることから、今後も、農



「JAぎふ はっぴいまるけ」の自社農園「まるけふあ〜む」(同社提供)

## 職場づくり塾

第4部

作業の手伝いを通じた農家・農業法人と障害福祉サービスマン事業所の結び付きは拡大していくことが見込まれます。その中から、農業に本格的に取り組む障害福祉サービスマン事業所や、障害者の雇用にも本格的に取り組む農家や農業法人が出現してくる割合も加速的に増加すると考えられます。

### 集出荷施設など 広がる受け入れ

また、今回は紙面の関係で詳しくはご紹介できませんでしたが近年、JAの集出荷施設で雇用される障害者が散見されるようになってきました。こうした障害者雇用を実現しているJAでは、関係者による障害者の特性に対する理解が進み、障害者の雇用にとどまらず、JAの集出荷施設への障害福祉サービスマン事業所からの施設外就労によるお手伝いの受け入れを行ったり

(高知・JA土佐くろしおなど)、組合員農家と障害福祉サービスマン事業所などのマッチングに取り組んだり(群馬・JA甘楽富岡など)、農福連携への取り組み方にも広がりが出てきています。まずは、農業現場での障害者の受け入れから始めていただき、障害特性に対する関係者の理解が深まったところで、さらなる農福連携の展開に取り組んでいただけたらと願っています。

JAによる社会貢献を考えた際に、農福連携は大変取り組みやすく、かつ、ニーズも拡大していることから、地域に歓迎される取り組みだと思えます。

また、こうした農福連携への取り組みをきっかけにして、JAが、生産現場以外でも障害者と共に働く場をつくっていくことができれば、協同組合精神を養成する人材育成や職場づくりにもつながっていくと思われれます。今後、農福連携や障害者雇用に対するJAによる積極的な対応を期待しています。(この項おわり)

# 共に働く場所を提供